広報
はぼろ
No.253　1984年　8月号

7/25　老人スポーツ大会から　写真集団はぼろ・秋葉　勇さん撮影

みんなの町民憲章

仕事を大切にし、働くよろこびに生きるうるおいのある町にします。

……今月の実践目標……

郷土の産業を大切にし、新しい仕事をおこしましょう。

行事予定

8月

12日▼一丁目飲食店歩行者天国・南三条一丁目
14～15日▼駅前振興会歩行者天国・南四条三丁目
16日▼オロロンばん馬競技大会・川北工業団地
19日▼ちびっ子カーニバル羽小グラウンド
20日▼仮装盆踊りパレード
▼心配ごと相談所開設
勤労青少年ホーム
22日▼一歳六ヶ月検診及び神経芽細胞腫検査・児童会館
23～27日▼東日本軟式野球一部北海道大会・スポーツ公園
24～25日▼招魂祭・羽幌神社
26日▼管内PTA研究大会児童会館
28日▼少年少女スポーツ大会・スポーツ公園
▼成人病健康相談・児童会館

9月

2日▼健民体育祭・スポーツ公園
5日▼年金相談・役場
7日▼身体障害者巡回更生相談・児童会館

第３回定例町議会

運動広場・災害復旧工事など追加補正

１億２２９２万８千円の大型補正

第三回定例町議会が去る六月三十日、七月二、三日の三日間にわたり開催され、行政報告、一般質問に続いて議案審議が行われ、国民健康保険税の税率を引き下げる町税条例の改正、一般会計補正予算案など議案十件を原案どおり可決しました。

主な内容は、次のとおりです。

行政報告（町長）

国鉄羽幌線廃止承認は遺憾

廃止承認という、このような事態を迎えて、当初私どもが予測をしなかった長大路線五線の中に羽幌線が入ることが出来なかったことは、誠に申し訳なく遺憾に思っています。力足らざるところを深くおわびいたします。

今後は、残された政治的な決着を更に強め路線延命に最大の努力をいたす決意ですので、議員各位のご支援と町民の方々のご理解を頂きたいと思います。

最終的には、明年夏に予定されている国鉄管理委員会（民営分割）の答申で、北海道の国鉄自体が、その存廃を道民に問われるが、この時点まで羽幌線も同じ舞台の中で論議されるので、道民の納得のいく形の中で決着を見るなら、やむを得ないと思います。

現時点では、地方協議会の問題についても、私としては協議会のテーブルにつく意志は全くございません。おわびを兼ね、新たなるご支援をお願いいたします。

一般会計・老人保健医療特別会計補正予算

歳入歳出それぞれ一億二千二百九十二万八千円を追加補正して、予算総額四十四億二千二百九十二万八千円となり、南町運動広場整備、災害復旧工事など大型補正予算となっております。

また、老人保健医療特別会計は、歳入歳出それぞれ七万七千円を追加補正して予算総額が四億三千九百四万円となりました。

一般会計の主な補正予算事業は下記のとおりです。

50万円以上の主な補正予算事業　（単位万円）

事業名	予算額
史資料収集嘱託報酬	54
天売ゴミ捨場整備工事	76
留萌管内季節労働者共済会設立運営補助金	136.2
地域経済振興対策（ラム肉加工）事業補助金	50
食肉処理施設設置事業補助金	60
団体営農道整備事業調査設計負担金	80
農村総合モデル事業計画策定費	310.5
あわび増殖特別対策事業補助金	545.8
養殖（ホタテ）生産施設整備事業補助金	746.6
観光施設（朝日公園）整備事業補助金	500
南７条改修工事	819.5
高度へき地生徒修学旅行費補助金	89.8
南町運動広場整備工事	4010
河川災害復旧工事	2969.1
道路災害復旧工事	1421.4
計	1億1868.9

教育行政報告（舟見正明教育委員長職務代理）

社会教育課と公民館を一体化

公民館長退職に伴う、後任館長発令につきましては、年度途中であることと、四月に係長、一般職の人事異動をしたばかりであり管理職については、明春異動を予定しております。

このことから、社会教育課長が公民館長及び勤労青少年ホーム館長を兼務することにしました。

このことは、一人のキャップで職員を機能的に有効に活用することも、一つの方法と考え社会教育課と公民館を一体化することによりセクトを排し、行政事務と実践活動の強力な連携による社会教育の推進体制をかためることにしました。

当面、このような考え方で社会教育の執行にあたりますのでご理解をお願いします。

夜間照明施設設置決まる

―南町運動広場―

体育協会、軟式野球連盟、ソフトボール連盟から陳情書が出され、議会社会文教常任委員会（岩田慶一委員長）に付託されていた夜間照明設置について、委員長から審議報告が次のとおりなされました。

「勤労者のスポーツ活動を推進することとともに勤労意欲を一層高め、仲間との連携も強め健康で明るい町づくりのために、当委員としては夜間照明を設置することについての陳情趣旨について意見の一致をみ、採択をすることに決定した」と報告され、このあと本議会で可決されました。

このことによって、今年九月ころから総二ヵ月の工期で工事が開始されるが、夜間照明のほか、グラウンド造成も合せて総事業費四千十万円で実施されます。

ソフトボールは、二面同時に競技できる照明設備となります。

本グラウンドは、町民が利用しやすい場所にあることからチビッ子野球、ソフトボール、お年寄りのゲートボールなどに広く利用されています。

特に、ソフトボール連盟のリーグ戦が開始すると、チビッ子野球の練習と競合してしまいます。

このことから、ソフトボール連盟が主体となって、町に陳情書が提出され、今回の採択になりました。

今シーズンには、間に合いませんが冬季の雪まつりまでには完成の見込み。そして来年から本格的にソフトボール、野球などのナイターゲームが行われ、夜間に白球が飛び交うことになります。

恒久の平和を願い 非核『平和の町宣言』を決議

七月三日の本会議で「平和の町宣言」を求める決議案が提出され、全会一致で採択されました。

この決議は、今年五月に平和都市宣言を行った留萌市に次いで管内では二番目になります。

これにより、町では部内協議を進めることになり、早ければ年内に平和の町宣言を行うことになります。

〝宣言文〟

真の平和を希求することは、人類共通の願いであり、この崇高な理想実現のため、常に努力を続けて行かねばならない。

私たち町民は、今日の緊張した国際情勢を認識し、我が国の非核三原則の堅持はもとより、核戦争の脅威を排除するため、地球上から永久に核兵器が廃絶されることを強く願うものである。

ここに羽幌町は恒久の平和を願い幸せな町民生活を守る決意を表明し、非核平和の町を宣言する。

友好町村のきずなを深める

富山県平村から村長・議員一行来町

本町と友好町村を結んでいる富山県平村から七月十八日、図書村長はじめ議会議員一行（十四人）が本町を訪れました。

本町と平村は、明治二十九年に平村から四十戸が平地区に入植したのが縁で、五十四年九月に友好町村を締結しています。

これまで、互いに交流を深めてきており、今年六月にも平村教育委員一行六人が親善訪問及び行政視察のため来町しています。

今回の一行は、十六日に本道入し、北方領土視察などのスケジュールを終て、この日、午後三時ごろ、庁舎前で町長、議員、職員らが出迎える中、バスが到着、両町村長が固い握手を交したあと、藤沢町長の歓迎の言葉、続いて女子職員から花束が贈られました。

図書村長が「一層の友好の輪を深めていきたい」とあいさつし、このあと行政懇談会が開かれ、両町村長から、それぞれの町村の概況説明があり、互いに意見交換がされました。

また、児童会館で開かれた歓迎レセプションでは、平地区の人たちによる筑子舞が披露され、和やかな交流が繰り広げられていました。

小・中・高校生地域奉仕活動

マチのゴミを一掃

大掛かりなクリーン作戦展開

羽幌小、中、高校生地域奉仕活動実行委員会（委員長・羽高ＰＴＡ会長　松田久輝）が、七月十三日、市街一円にわたり大掛かりなクリーン作戦を展開しました。

清掃活動に参加した児童、生徒たちは、さわやかな汗を流しました。

青年会議所・父母らも支援

この活動のねらいは、児童、生徒が地域社会に対する関心と愛着を高め、社会の形成者としての自覚のもとに、すすんで地域活動に参加する場と機会を与えようと計画したものです。

この日、午後一時から始められた清掃活動は、羽幌小学五年生から中、高校生の児童、生徒およそ千六百人と、父母、ＰＴＡ、青年会議所らも加わり、マチをきれいにとゴミ一掃作戦が展開されました。

作業は、前もって打合せたとおり、役場庁舎、小学校、児童会館、羽幌港、川北福祉センターに、小、中高校生をクラスごとの縦割りの五つのグループに配置して、ゴミ袋を手に、町内主要道路、公共施設周辺などを中心に、空き缶、紙クズ、木片など拾い、青年会議所が用意したトラック五台に、それぞれ集められました。

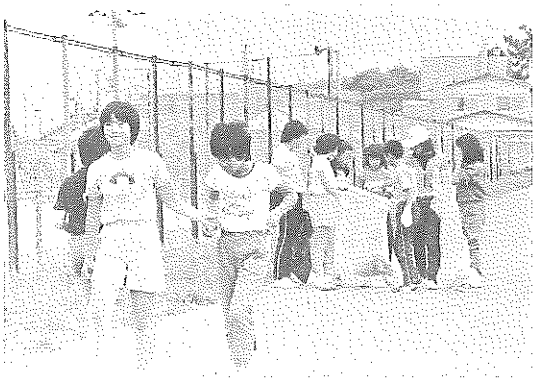
作業は、約一時間ほどで町並から、すっかりゴミが一掃され町民から大いに感謝されました。

昨年までは、各学校で独自に取り組むことはあっても、小、中、高校が一体となっての大掛かりなクリーン作戦は今年が初めてのことです。

郷土の美化意識の高揚もねらったこの作戦は、観光本場を迎える時期だけに、最大の効果を発揮したといえるでしょう。

実行委員会では、来年以降も清掃活動を続けることにしています。

この清掃活動のために、町からの依頼に心よくゴミ袋（四百枚）を無料で提供していただいたコカ・コーラ羽幌営業所長に感謝申し上げます。

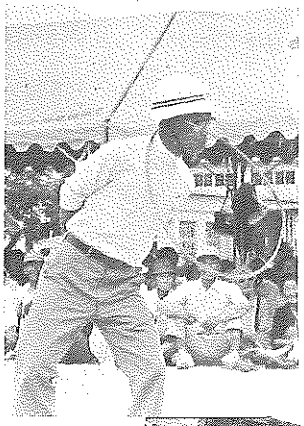


まだまだ老いてはいないぞ

▲コミュニケーション、もっと！

▲年増の花嫁さんだが我慢するか

▲言うこと聞いてよ、このクソー樽



◀オットットうまく投げろや

第10回 老人スポーツ大会 390人参加

▲もっとお寄りよ離れずに♬

第十回羽幌町老人スポーツ大会が、七月二十五日、羽幌小学校グラウンドで開催され、熱戦の末、緑チーム（築別、上築、曙地区）が二年ぶり8回目の優勝を飾りました。

この日の朝に小雨がパラつき屋外での大会が危ぶまれ、関係者を心配させましたが好天に恵まれ、大会の全日程が予定どおり行われました。

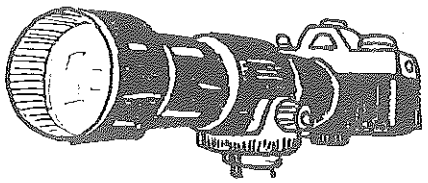
この大会は、お年寄りの相互の親睦と、健康で豊かな老後を送るためスポーツに接し、併せて老人福祉向上をねらいとして羽幌町社会福祉協議会（会長・弓庭登）が、昭和五十年から毎年実施しているものです。

大会には、町内（両島除く）に住む六十五歳以上のお年寄り三百九十人が、地域別に四チームに分かれ、終始和やかな雰囲気の中で、自チームの声援を背に健脚を競いました。

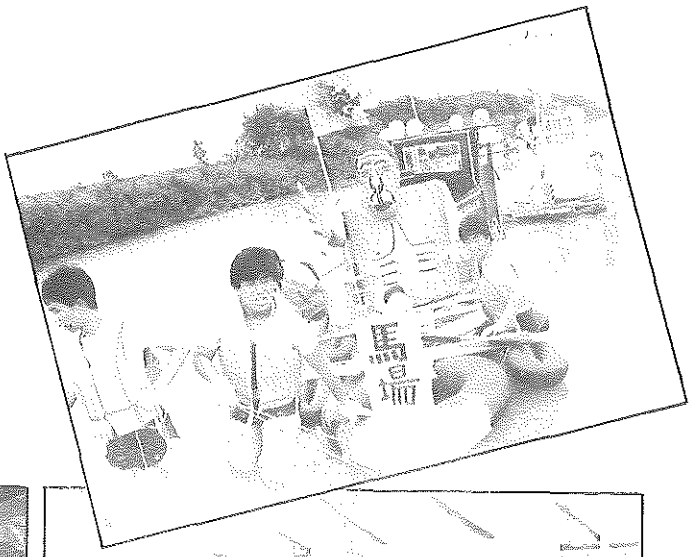
優勝した緑チームは、比較的若い年令の人がそろっていることと、息の合ったチームワークで団体種目を制したことが勝因と思われます。

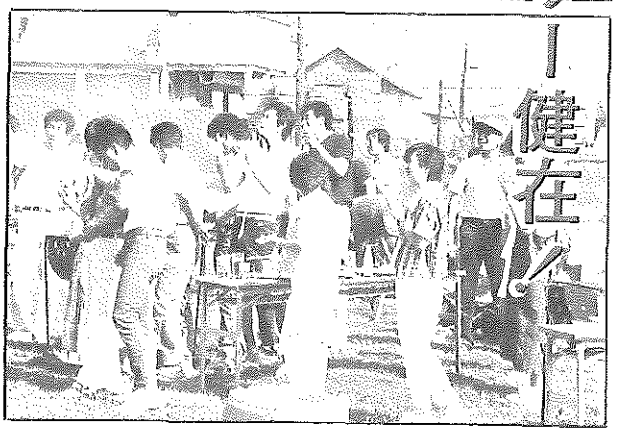
大会の成績は、次のとおりです。

順位	チーム名	得点
1位	緑組（築別・上築・曙地区）	三五七点
2位	白組（川北・朝日・汐見地区）	三二四点
3位	黄色（寿・中央・上羽幌地区）	三〇五点
4位	赤組（川南地区）	二九九点



カメラレポート



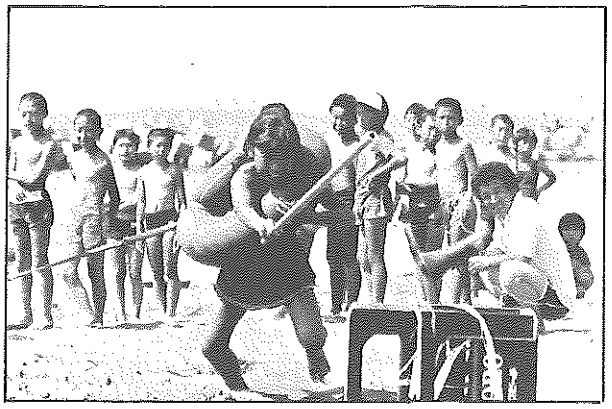


羽幌川イカダ下り

今年で３回目を迎えた〝羽幌川イカダ下り〟が７月15日に華々しく行われました。

この催し、勤労青少年ホームに集う若者たちが企画しているもので、今年は14チームが参加。着順よりアイディアを競うゲームとあって、創意工夫を凝らしたイカダがずらり。ゴール前で待ち受ける町民の目を大いに楽しませてくれました。

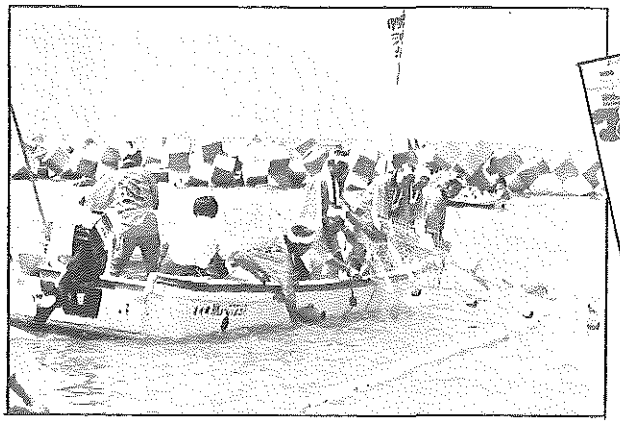
レース終了後、交歓会が行われ、生バンド演奏やゲームにと真夏の一日を楽しんでいました。



オロロン祭

7月28、29日の両日、第6回オロロン祭りが盛大に催され、大勢の町民でにぎわいました。

28日は初の試みであるヘリコプター遊覧飛行を初め、ブラスバンド演奏会、綱引き大会、ビール早飲み競争が行われました。翌29日は恒例のオロロンマラソンが、10時にスタート。一方、前浜海水浴場ではオロロン太鼓、人間ばん馬大会、勝ち抜きドンドコ歌合戦など多彩な催しが繰り広げられ、終日にぎわっていました。



事故を未然に防ぐための 誤使用読本 シリーズ①

“圧力なべ”

わたしたちが日常使用する製品の中で安全性の高いものに“ＳＧマーク製品”があります。でも、これとてひとたび使用を誤まれば大きな事故につながりかねません。製品の特性をよく知り、常に正しい使い方を心掛けましょう。

無理に開けないで！

圧力なべが人気を集めていますが、普通のなべと違ってなべの気圧が上がるので取扱いを誤ると危険です。

▼事例一

豆を煮ていてガスを止めようとしたところ突然爆発し、ガスレンジ、食器棚のガラスが破損し、安全装置（弁）が飛んでいました。

使用者は男性で右人差し指打撲。なべの使用期間は一年。安全装置の組立てミスが原因です。

▼事例二

重ねぶた式なべでおかゆを作り、圧力を下げるとき噴出してやけど。使用期間は不明。原因は、このなべはおもりを一段だけ引き上げるところ、おもりそのものを抜いてしまったためです。

▼事例三

料理講習会で煮炊き後、おもりの操作をしないで二人がかりで開けようとしたところ、中の煮物がふき出て、一人は左胸、一人は胸・右下股退部にそれぞれやけどを負いました。

▼事例四

そうめんをゆで、蒸気が出はじめたので火を止め、おもりを取るとゆで汁が出てきたので再びおもりをし、ふたを開けようといじっているうちに開いて中味が飛び散り、使用者は顔、両腕、肩、背中にやけどを負って十日間通院しました。なべは四ヵ月使用。

▼事例五

おしるこを作って放置、十八分後に開けようと三人がかりでいじっていると、開いた瞬間に爆発し、十二歳の少女は眼を、顔、首にやけどして入院二週間、通院二週間。母親は両腕に、もう一人は左腕にそれぞれやけど。使用期間は三ヵ月でした。

以上のように事故の原因のすべては、なべ内の圧力が完全に下がっていないうちにふたを開いたことが原因です。

圧力を下げてからふたをとること、ふたの開閉装置が重いときは無理に開けない、というごく基本的な扱いを怠ったために生じたトラブルです。

圧力なべは普通のなべにない利点がある反面、取扱いを誤ると事故につながりかねない製品です。圧力なべの良さを生かすためには、取扱説明書をよく読んで充分理解した上で使っていただきたいものです。

こんにちは 栄養士です ①

夏バテ防止にサラダめんはいかが？

暑い夏は、あっさりと冷たいめん類を好むものです。

今月は、夏バテを防ぐために、スタミナのあるサラダめんを作ってみませんか。

材料〈２人前〉

そうめん(乾)	180ｇ
な　す	１コ
トマト	１コ
きゅうり	１本
青じその葉	３枚
焼き豚	80ｇ
ドレッシング	レモンの絞り汁…大サジ２
	塩……小サジ½
	油……〃　２
	しょうがの絞り汁　〃　１
	調味料＝塩

《作り方》

① なすは薄い輪切りにして、塩少々でもみ、しばらく置いた後、水で軽く洗い、絞る。

② トマトは皮をむき、1cmの角切りにする。

③ きゅうりは薄い輪切りにする。

④ 青じその葉は、縦二つに切ってから、細いせん切りにする。

⑤ 焼き豚は、薄切りにして1cm幅に切る。（ハムを使ってもよい。）

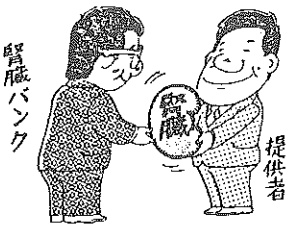
⑥ そうめんはたっぷりのお湯でゆで、冷水にとって流水でよく洗い、ざるにあげて水けを切る。

⑦ レモン汁、塩、油、しょうが汁をよくあわせ、ドレッシングを作る。

⑧ そうめんを器に入れ、①～⑤の具を彩りよくのせ、ドレッシングを好みの量だけかけて食べる。

待たれる腎臓移植

死後の腎臓提供を



日本には現在五〇八以上の人工透析患者がいます。

腎不全等で透析治療を受けている者は、通常週三日、一回に五～六時間もの透析を欠かさず受けなければなりません。それも、あくまで対症療法であるため、生きている限りこの治療を続けなければなりません。

透析を受ける子どもたちの多くが腎臓移植を希望しています。みんなと一緒に勉強したい、元気な体で遊びたい、普通の大人の体に成長したいと…

成人透析者も半数近くが移植を望んでいます。食事制限、生活制限から解放され社会復帰も有利になります。

腎臓移植は欧米諸国で広く行われており、特に米国においては年間数千例を数え、しかも過半数は遺体から提供されたものです。

しかし我が国における腎臓移植は年間四百例程度にすぎず、遺体からの提供は極めてまれです。

腎臓病に悩む方々に、明日への希望をもたらすため、死後の腎臓提供をお願いいたします。

詳細は左記へお尋ねください。

財団法人　北海道腎臓バンク　札幌市中央区北一条西七丁目おおわだビル二階
☎〇一一―二六一―二〇三三

開設します　行方不明者相談所

みなさんの家族や親族の方で家出をしたり、出張先や働き先などから突然所在がわからなくなった方はおりませんか。

道内では、昭和四十九年から現在まで約四千人の方が行方不明となっておりますが、その中には不幸にして犯罪の被害者になったり、すでに死亡して身元が判らないために無縁仏として淋しく葬られている人もおります。

このような人を少しでもなくしたいということから警察では、本年も左記の日程で「行方不明者相談所」を開設いたします。

個人の名誉と秘密は厳守いたしますので遠慮なくご相談においでください。

とき　九月十四日
ところ　留萌警察署

留萌市大字留萌村字留萌（☎②2151）

東日本軟式野球一部北海道大会迫る

とき　8月23日～27日
ところ　羽幌町スポーツ公園野球場
羽幌高校グラウンド

全道の軟式野球連盟各支部から代表25チーム、地元羽幌町から1チームの計26チームが参加して覇を競います。地元チームの活躍を期待しましょう。

花火は正しく扱いましょう

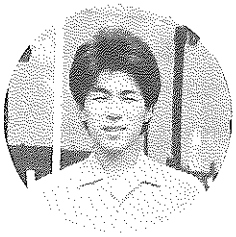
―羽幌消防署―

〈遊ぶ時の注意〉

- 花火に書いてある遊び方をよく読んで必ず守りましょう。
- 花火を人や家に向けたり、もえやすい物のある場所で遊んだりしてはいけません。
- 風の強い時は花火遊びをやめましょう。
- 衣服に火がつかないように注意しましょう。
- 水を用意しましょう。
- 大人と一緒に遊びましょう。
- たくさんの花火に一度に火をつけることは危険です。花火は1本づつ遊びましょう。
- 正しい方法で、正しい位置に点火しましょう。
- 吹出し、打上げなど筒物花火は途中で火が消えても筒の中をのぞいてはいけません。
- 花火をポケットに入れないようにしましょう。
- 花火をほぐして遊ぶことは危険なのでしてはいけません。

我が町をよくしたい　福祉編

日ごろわたしが考えていること



工藤卓司さん
26歳・南2条3丁目
石川金物店勤務
BBS事務局長

若者の〝ボランティア〟参加を

「ノーマライゼーション」という言葉をご存知でしょうか？　ちょっと耳慣れない言葉かも知れません。

つまり、社会には、障害を持つ人たちが何パーセントかは必ず存在していて、障害者と健康な人が一緒に生活しているのが社会の正常（ノーマル）な姿であるということです。

同時に障害者も健康な人も社会という一つのチームの一員であり、そのチームワークを守るために、その相手と共に暮らし、共に語り、共に歩んでいく社会を創っていこうという考え方、運動なのです。

現在、羽幌町では、社会福祉協議会を事務局としたボランティアセンターが一昨年暮れに発足しました。

このセンターの活動としては、独居老人の事から始まって、青少年の非行防止運動など様々な活動を行っています。

しかし、残念ながら、この活動を行っている人は、ごくわずかで主婦層が中心で、一番活発に活躍しなければならない若者が少ないということです。

現在に至る我が国のボランティア活動は、若者たちの手によって幕引きされたといっても過言ではないほど、各地で様々な活動報告がされています。

今年、十月に当町において計画されている「ふれあい広場」もやはり、ある街での若者たちによって企画されたものなのです。

人生において、多感な時期である青春期には、悩み苦しんでいるが故に他人に対しても、やさしさ、思いやりがはぐくまれるものではないでしょうか。

こんな大切な時に、自己中心にとらわれることなく、少しでも多くの若者がボランティア活動に参加されてはいかがでしょう。

来年は『国際青年の年』。世界の国々で、これにちなんだスローガンを掲げ、各地で集い語らいの場が繰り広げられることでしょう。

我が街、羽幌でも若者が力を合せれば、何か大きなことができるのではないでしょうか。

今一度、自分たちの立場を振り返ってみて考えてみませんか？

〝BBS運動とは〟

過ちをおかした、少年たちのよい友達になって彼らの立ち直りへの手助けをする青年によるボランティア活動です。

投稿の要領

- 皆さんが日ごろ町づくりについて考えていることをお寄せください。
- 封書、はがきでの投稿を原則としますが、電話でのお話しもお受けします。
- 必ず、氏名、住所、年齢、職業を明らかにしていただきます。
- 投稿のあて先・羽幌町役場町民課自治振興係
（☎2局1211番　内線104番）

募集します　ポスター・標語

来年の二月一日に行われる農業センサスのポスター、標語を募集します。

農業センサスは、五年ごとに全国のすべての農家等を一斉に調査する農業の国勢調査とも言うべきもので、このセンサスに農家の皆さんの協力が得られるように、傑作をお寄せください。

（内容）

▼**ポスター**　明るく農家に理解されやすいもの。次の文字を必ず入れる。農業センサス・昭和六十年二月一日、農林水産省

大きさは縦七十二センチ横五十一センチ。色は文字を含め五色以内とする。

▼**標語**　官製はがきに一枚一句（一人三枚まで可）

（締切）

昭和五十九年九月三日。（ただしポスターは八月十七日まで）

（送り先）

〒一五三　東京都目黒区二―一一―一四・大島ビル　財団法人・農林統計協会（ただしポスターは役場企画課まで）

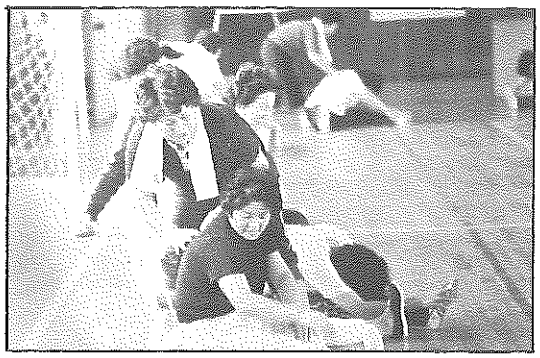
ふれあいがあなたの心をなごませる

羽幌町社会福祉協議会
事務局　役場福祉課

町の話題

あなたの身の回りにあるユニークな出来事をお知らせください。取材に伺います。

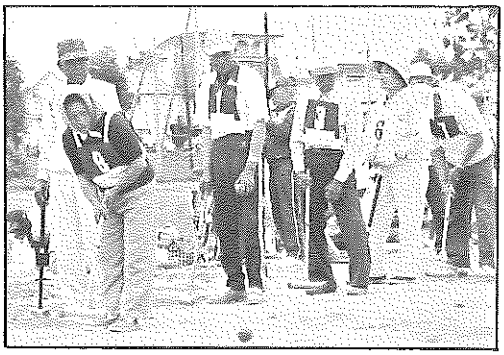
シエイプ・アップは女の義務？
―決意も新たに「健康づくり教室」―



いつの世にも〝美容〟は女性の最大の関心事。

プロポーションを美しくしたいという女性の〝永遠の願い〟にこたえるべく（？）このほど企画されたのが「健康づくり教室」。昨年の循環器検診で三〇％以上の肥満度と判定された女性を対象に開講したところ、三十一名の参加とまずまずの出足。これから一年間かけて、肥満解消を目差す女性たちの涙ぐましい努力が続きそうです。

激突！シルバーパワー
―ゲートボール大会―



留萌支庁地区老人クラブ交歓ゲートボール大会の出場権をかけた試合が七月十三日、南町運動広場で行われました。

試合には町内の各老人クラブから十チームが参加、A、B二つのブロックに分かれて好ゲームを展開。留萌地区大会の出場権がかかっているとあってか、プレイする選手たちの表情は真剣そのもの。六時間に及ぶ熱戦の末、川北・川南・築別・上築の各クラブが地区大会に駒を進めました。

美しい北海道を〝パチリ〟
―豪の女性カメラマン来町―

自転車で道内を周っているオーストラリアの女性が先ごろ役場庁舎を訪れました。この女性、名はソレル・ウィルビーさん（二二）。シドニー出身のフリーカメラマンで、昨年十二月に撮影旅行のため日本を訪れました。

その後、全国各地、さらには韓国へも足を延ばし、七月初めに二度目の来道。

今回は休暇を利用して訪れた妹のポーカス・ウィルビーさんと一緒に道内を周るとのこと。とても陽気で人なつっこい二人でした。

青春全開！
―羽高学校祭仮装パレード―

〝魂こがして〟を今年のメインテーマに、第二十四回羽幌高校学校祭が七月二十一日から三日間にわたって開かれました。

初日は恒例の仮装パレードが行われ、沿道を埋めた町民は大喜び。毎年大人顔負けの凝った企画で町民の目を楽しませてくれるこのパレード、今年は〝核兵器反対〟や〝カンボジア難民救済〟を訴える仮装も登場して、現代高校生の〝社会派〟的一面をうかがわせました。